

宮城県女川町、旭が丘北側地区
仮設住宅で暮らす小松よし子さん

(68)

仮設住宅は暑い。天井と壁に鉄柱がむきだしで、気温が高い日にはやけどするほど熱くなるんです。断熱材を入れてもらえたらいいんだけど。冬も寒いでしょうね。壁が薄い板だから、夜になると隣家の音が聞こえます。窓が小さくて日の光も入らない。どこかに出かけるにもバスの数が少なくて不便です。

うれしかったのは仮設住宅の玄関に網戸をつけてもらえるように

断熱材 仮設住宅に

被災地

いま言いたい

なったこと。ハエや蚊がひどいから助かっています。共産党の町議さんが町にかけあってくれたんですよ。先に自費でつけていたけど、そのお金も返ってくることになっただけです。

そうやっていろんな人に支えられて、前向きに生きたいと思い始めました。

お医者さんに「PTSD(心的外傷後ストレス障害)になりかけている」と言われていたの。3月11日に津波に引きずり込まれそうになったことを思い出すと涙がこぼれる。

被災の翌日に、私を背負って安全な場所まで運んでくれた人がいました。名前も聞けなかった、その人に会って「ありがとう。生きてます」と伝えたい。



宮城・石巻魚市場買受人協同組合
理事 布施三郎さん(61)

この石巻でも、7割の水産加工業者が再建を見合わせています。加工業だけでも5千人が雇用を失いました。

その日その日、石巻では何が水揚げされるのか、どれほどの量なのかが予測できない難しさがあります。

漁業者、冷凍保存業者、加工業

漁業者を守る発想を

者らが一体となって水揚げに日々備えていなければならぬ。ひとつだけ復活してもためなのです。

私たちは、銀行も貸し渋る中で、行政や省庁に支援を働きかけ、再建を迷っている人に前向きになってもらうべく活動しています。

早期の復旧こそ要です。業者の再建への見通しが長くなればなるほど意欲は失われていってしまう。黙っていれば、人材は県外に流れてしまうでしょう。

そうなる町そのものの存続が危うくなります。私も45人の従業員を早く呼び戻したいところですが、雇用保険の失業給付で耐えてもらっています。

経営者は従業員の生活に責任があります。国は、今の事態を止めて、漁業者を守る発想を持ってほしい。